

[参考] 無農薬栽培の取組事例 (高萩市 : 柴田農園)

無農薬栽培による「エディブルフラワー」の取組 (高萩市 : 柴田農園 柴田氏 現在 32歳)

化学農薬を使わずに、食べられる花「エディブルフラワー」の栽培を進めています。

◆ 栽培品目等 : 柴田農園

主に、年間を通して約 100 種類の
ベビーリーフ、ハーブ、
エディブルフラワーを生産

(→エディブルフラワーは、約 40 種類)

◆ 経緯等

- ・ 祖父が祖母とともに、水稻、野菜の栽培を中心
→ (その後) プロイラーを導入し、「柴田農場」を立ち上げ
→ (その後) プロイラーを終了し、繁殖和牛を導入
→ (その後) 花苗の生産を始める



- ・ 2000年 母が就農し、祖母とともに、花苗、野菜苗を生産

- ・ 2016年 「柴田農園」へ (前年に、繁殖和牛を終了)

- ・ 2019年 柴田氏が就農し、「食用花」栽培の取組を展開 (大学卒業後、食品会社に就職したが退職して就農)

→ 大学は農学部で、また、祖父・祖母・母ともに農業に携わっていたが、一方で、父は公務員という環境で育ったこともあり、特に、就農を意識していなかったため、食品会社の商品開発部門 (三重県) に就職した。その後、帰省するたびに、小さな頃から見えてきた和牛がいなくなるなど、農業経営 (事業展開) が変わっていかつての活気が欠けてきているように感じ複雑な気持ちもあった。実家に戻り、就農に際しては、これまで本格的な栽培経験がなかったため、水戸市内の農業法人に研修に入った。約 2 年間の研修後、広島県内の農業法人での研修 (約 1 か月) を経て、実家で「エディブルフラワー」栽培の取組を始めた。

◆ 出荷先は、レストランが中心

→ 現在、約 40 社との取引がある (商品価格や栽培方法などを理解してくれるレストランを選定している)



□ 取組への考え方等

- ・ 大学生 (農学部) の時に、農業についても学んだが、食品会社での勤務経験もあり、特に、人が直接、口にするものであることから、農薬を使わない栽培 (手法) について、自分なりに考えるようになった。実際に、化学農薬を使わずに、エディブルフラワーの栽培をしている広島県内の農業法人に行き、研鑽を積んだ。
- ・ 就農してから、レストラン等にも足を運ぶとともに、県北地域内の同年代の人達とも交流を図っている。まだ、エディブルフラワーの栽培を取組は始めたばかりだが、今後とも、幅広い交流を図りながら、進めていきたい。